

竜胆の君へ

篠井きみ子

千葉県・四八・主婦

木陰での出会いは、あなたが竜胆ならやはり私は野菊の花が似合うと思いませんか。ひっそりと控えめに咲く花にも、時には激しさと鮮やかさが交差するそんな時があつてもよいのではないでしょうか。

四十路の春に出会い、もう初秋の風が吹き始めました。そのうち、きっと休みを一緒にとろうねと言ってくださいましたのに……。

年甲斐もなく純情ぶる私に、どこまでもおつき合いくださるあなたは、本当に心優しい方なのです。ね。あまりの優しさに、折りにふれ心の奥がどうしようもなく、熱く波打つことがあります。できることなら、もう一度生まれ変わって、若い時の出会いにしたいと思うことさえあります。でも、それは成りません。今のあなたで、今の私であるからこそ出会ったのです。ね。ある時あなたは、「本気になったら駄目だよ」と言われましたが、なんだかとても切なくて……。ほおを伝わる切なさ、野菊

に落ちるひと粒の小さな滴のようです。

日溜まりのような心地良さが周りを包みこみ、あなたの少々の温もりが伝わるとき、言葉なんていらぬそんな気さくおこさせるのです。

裏通りが好きというあなた、でもあなたには表通りを歩く人であってほしいのです。私は裏通りからついて行きます。

散りかけた私の体を優しく包んでくれた、手を差しのべればすぐそこなのにとどかぬもどかしさ、これでよいのです。ね。時折見せてくださる熱いまなざし、強く握りしめられる手の感触だけが私の支えです。

気持ちを、心を大切に思ってくださいるあなたに、限りなく熱いものを感じていたいのです。

そして、優しさの中に命を感じつつ、あなたの瞳の中で永遠に生きていきたいのです。

野菊より